



平成30年8月6日

「第3回全国高校生SBP交流フェア」の開催について

文部科学省では、学びを通じた地域振興の観点から、高校生らがビジネス手法を取り入れながら地域課題を解決する「地域ビジネス創出事業」(Social Business Project: 略称SBP)を応援しています。

この度、全国のSBP団体が参加し、日ごろの活動成果を発表し、団体間等の交流を深めることを目的とした「第3回全国高校生SBP交流フェア」を、未来の大人応援プロジェクト実行委員会との共催により三重県伊勢市において開催いたします。

各SBPの活動内容を評価する「SBPチャレンジワード」や、SBPと商店街がコラボレーションした交流イベント「夜の市」、関連企業の協力により実施されるワークショップなど、様々な取組により、高校生等によるSBP活動を盛り上げるイベントとなっています。

1. 日 程 平成30年8月17日(金)～18日(土)
2. 会 場 三重県伊勢市(皇學館大学キャンパス、伊勢銀座新道商店街)
三重県多気町(三重県立相可高等学校、高校生レストラン「まごの店」)
3. 主 催 (一社)未来の大人応援プロジェクト「未来の大人応援プロジェクト実行委員会」(委員長:岸川政之 皇學館大学現代社会学部教授)
共 催 文部科学省
4. 後 援 内閣府(地方創生推進事務局)、総務省、農林水産省、厚生労働省、経済産業省、観光庁、三重県、三重県教育委員会、伊勢市、多気町、南伊勢町、伊勢商工会議所、皇學館大学、伊勢度合ロータリークラブ、伊勢銀座新道商店街振興組合
5. 協力企業 株式会社赤福、アドビシステムズ株式会社、株式会社アンシャンテ、有限会社壹貳参、NT GROUP、株式会社NTTドコモ、株式会社O. R. コーポレーション、株式会社ゲイト、公益財団法人修養団、株式会社チェンジ、株式会社デンソープレステック、国立大学法人東京学芸大学、株式会社豊田自動織機、株式会社百五銀行、株式会社百五総合研究所、華為技術日本株式会社、富士ゼロックス三重株式会社、株式会社プラトンホテル、株式会社ベネッセコーポレーション、三菱商事株式会社、株式会社レオパレス21

6. 参加者 28団体、約350名（生徒約220名、関係者等約130名）
7. 趣 旨 全国の高校生が地域課題の解決に向けて、ビジネスの手法を学びながら、これまでの活動内容を発表し、自ら開発した商品を紹介・販売することを通じて交流し、互いに評価しながら向上することを支援する。また、趣旨に賛同した関係府省庁や企業等が協力して実施する“民官地”の協働プロジェクトとして、高校生の学びの充実とともに、地域の活性化に寄与することを目指すもの。
8. URL <http://mirai-otona.jp/>
9. 取材申込 取材を希望される場合は電子メールにて、8月15日（水）17時までに、氏名、所属または職業、連絡先（電話番号、メールアドレス）、撮影・録画方法（スチール・ムービー）、録音希望の有無を明記の上、下記メールアドレス宛てにお申し込みください。また当日は、係員の指示に従ってください。
- 連絡先：全国高校生SBP交流フェア事務局（担当：吉田）
メールアドレス：sbp@mirai-otona.jp

<添付資料>

- ・参考：プログラム、参加SBP一覧、審査員一覧
※一部調整中のため変更となる可能性があります。
- ・別添1 地域ビジネス創出事業（SBP）の紹介
- ・別添2 第2回全国高校生SBP交流フェアの様子

生涯学習政策局参事官（連携推進・地域政策担当）付
参事官補佐 星川、地域振興係長 廣田
電 話：03-5253-4111（代表）（内線：3464）
03-6734-3464（直通）
メール：chiiki@mext.go.jp

<参考>

■実施プログラム

○ 1日目 平成30年8月17日(金)

時刻	内容
13:00~	オープニング・オリエンテーション(会場:皇學館大学)
13:30 ~ 15:30	SBPチャレンジアワード・ポスターセッション開催 …SBP団体が各ブースに分かれて、自らの活動内容を審査員にPR。 翌日開催する「オールセッション」出場団体として、上位6団体を決定。
16:30 ~ 20:15	「夜の市」開催(会場:伊勢新道商店街) …各SBP団体による展示販売(SBP活動で開発した商品等の販売)や、地元高校生が参加するお茶会、地元商工会や商店街による出店等を実施する。小学生等地元住民もイベントに参加可能。

○ 2日目 平成30年8月18日(土)

時刻	内容
8:40 ~ 11:40	ワークショップ開催(会場:皇學館大学) …SBP参加者を対象として関連企業等が実施 ◆ 回収したペットボトルキャップを用いて巨大な絵を制作(株)レオパレス21提供) ◆ 「出逢い」をテーマにデザインしたオリジナルトートバッグを制作(アドビシステムズ(株)提供) ◆ カードゲーム等を通じて、身近な事としてSDGsを学ぶ取組(株)ゲイト提供) など ◆ PR動画の協同製作を通じて、参加者同士の交流を図る取組(実行委員会提供) 料理交流開催(会場:相可高等学校、まごの店) …三重県多気町にある高校生レストラン「まごの店」を運営する三重県立相可高等学校食物調理科の教員の指導により、特製弁当の調理を通じて参加者同士の交流を図る
12:00 ~ 13:00	昼食 …料理交流において調理された特製弁当を囲みでの交流

13:00 ～ 16:00	SBPチャレンジアワード開会式・オーラルセッション開催 …ポスターセッションの上位6団体がスライドを使って審査員・SBP参加者に向けてプレゼンテーションを実施。
16:00 ～ 17:00	講演：「グローバル時代を生き抜く」 村上 憲郎 氏（前Google日本法人名誉会長）
17:00 ～ 19:00	結果発表・表彰・閉会式 『文部科学大臣賞』 『三重県知事賞』 『特別賞』（協賛企業・団体、審査員による賞）等の表彰

■参加SBP団体一覧

都道府県	団体名・高校名
北海道	北海道留萌高等学校
青森県	青森県立鱒ヶ沢高校
青森県	青森津軽SBP（青森県立中里高校&木造高校深浦校舎）
山形県	山形県立酒田東高等学校
宮城県	仙台市立仙台商業高等学校
富山県	富山県立滑川高等学校
神奈川県	神奈川県立川崎高等学校養蜂部
静岡県	静岡県立駿河総合高等学校駿河WANプロジェクト
静岡県	静岡県立浜松城北工業高等学校料理調理研究部
静岡県	学校法人信愛学園浜松学芸中学校・高等学校
愛知県	中部大学春日丘高校
愛知県	愛知県立高浜高校
滋賀県	滋賀県立八幡商業高等学校SPH推進室
三重県	三重県立松阪商業高等学校
三重県	三重県立相可高等学校 生産経済科 NPO 法人植える美 ing
三重県	三重県立相可高等学校 食物調理科 調理クラブ
三重県	三重県立南伊勢高等学校 南勢校舎

三重県	三重県立四日市商業高等学校
三重県	三重県立伊勢高等学校
三重県	三重県立伊勢工業高等学校
三重県	皇學館高等学校
三重県	三重県立志摩高等学校
京都府	京都府立海洋高等学校
大阪府	大阪市立鶴見商業高等学校
和歌山県	和歌山県立神島高等学校
島根県	島根県立吉賀高等学校
愛媛県	愛媛県立大洲農業高等学校
沖縄県	沖縄県西原町内の高校生 NS2BP

■審査員一覧（五十音順・敬称略）

◆審査委員

氏名	所属
荒木 康行	株式会社百五総合研究所 代表取締役社長
角田 陽一郎	バラエティプロデューサー（元 TBS 番組プロデューサー）
小村 俊平	株式会社ベネッセコーポレーション学校カンパニー教育イノベーション推進課長
小役丸 秀一	株式会社グラノ24K 代表取締役
武井 史織	Creative Cloud Community Manager ADOBE
多田 祐美	三井化学株式会社 コーポレートコミュニケーション部広報グループ課長
鉄矢 悦朗	特定非営利活動法人東京学芸大こども未来研究所 理事長
徳田 嘉美 辻井 伸文	三重県教育委員会 高校教育課長 三重県教育委員会 高校教育課 指導主事
新田 均	皇學館大学 現代日本社会学部 学部長
村上 憲郎	前 Google 日本法人名誉会長/株式会社村上憲郎事務所 代表取締役

藻谷 浩介	株式会社日本総合研究所 主席研究員
于洋(ユ ヤン)	華為技術日本株式会社 渉外・広報本部渉外・CSR 部シニアマネージャー
森下 瑠奈 石原 悠佑	皇學館大学 現代日本社会学部 3年

■特別審査員（特別賞）

氏名	所属
黒田 美和	株式会社プラトンホテル 専務取締役 支配人
小谷野 由紀	三菱商事株式会社 中部支社長代理（兼）総務部長
小山 巧	三重県度会郡南伊勢町 町長
須崎 充博	三重県伊勢市役所 産業観光部 理事
五月女 圭一	株式会社ゲイト 代表取締役
武田 数宏	公益財団法人修養団 常務理事 伊勢青少年研修センター所長
田村 謙二	有限会社壹貳参 代表取締役社長
野呂 厚史	株式会社アンシャンテ 代表取締役
濱田 典保	株式会社赤福 顧問
福留 大士	株式会社チェンジ 代表取締役/執行役員社長
古川 雅章	株式会社 O.R. コーポレーション 代表取締役
山本 哲史	株式会社 NTT ドコモ ライフサポートビジネス推進部 教育・キャリアビジネス担当部長
吉村 武洋	株式会社レオパレス21 賃貸事業部PCR推進部西日本営業副部長

地域ビジネス創出事業 (Social Business Project、略称:SBP)



別添1

地方創生、地域振興の観点から、高校生が地域の大人と共に ソーシャルビジネス(※)の展開により地域の課題を解決していく取組。

具体的には、高校生らが地域資源を知り、見直し、活用して“まちづくり”や“ビジネス”を提案し、その取組を、地域で応援し支えていくもの。

三重県多気町にある相可(おうか)高等学校食物調理科調理クラブが運営する高校生レストラン「まごの店」等を先進事例に、平成25年4月に三重県立南伊勢高等学校南勢校舎で最初のSBPが立ち上がった。

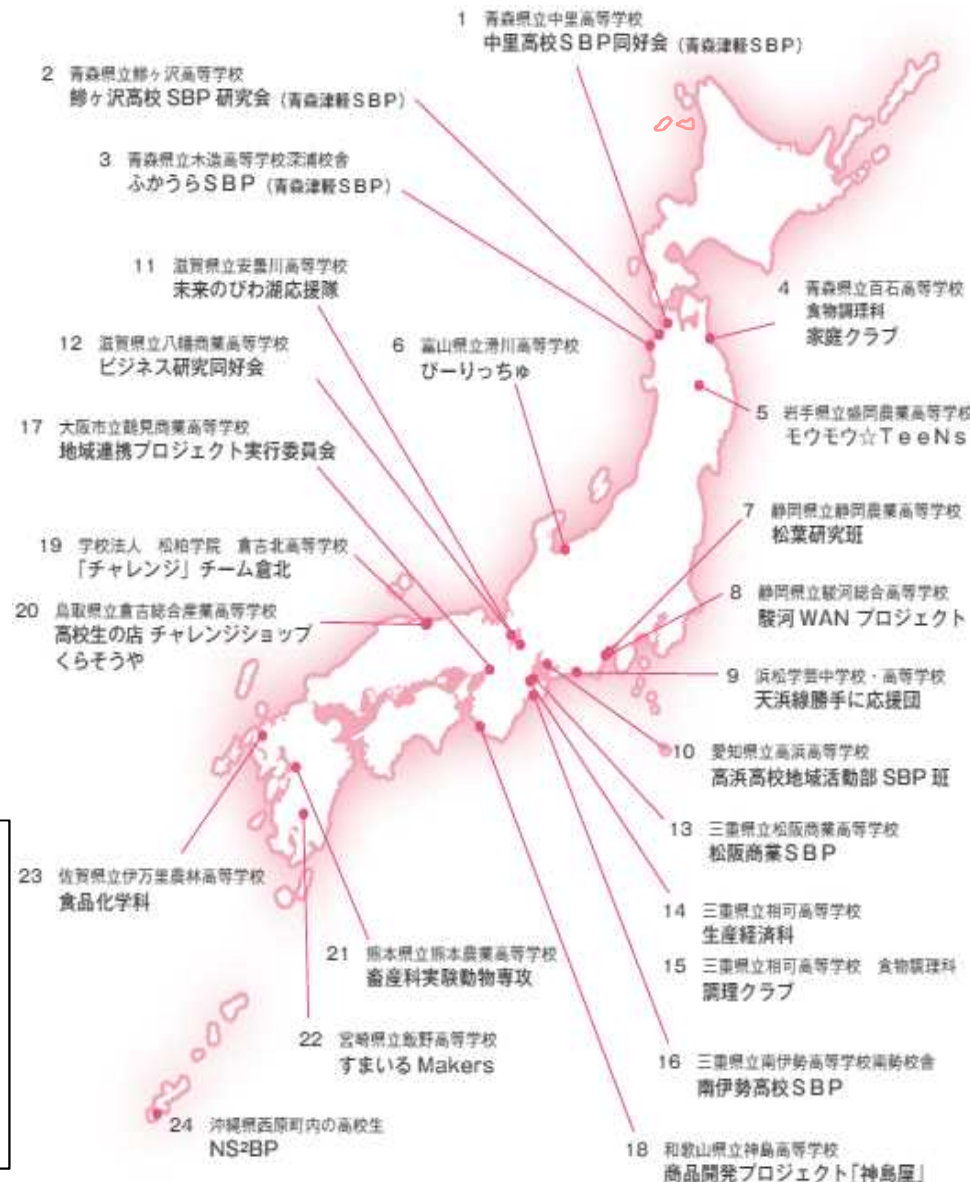
現在、同様の取組が全国に広がっている。

※ソーシャルビジネス:社会的課題への取組を、継続的な事業活動として進めていくこと。地域の自立的支援や雇用創出につながる活動として有望視されている。(小学館デジタル大辞泉より)

文部科学省は、平成29年8月に三重県伊勢市で行われた「第2回全国高校生SBP交流フェア」を共催した。

(第3回を平成30年8月に共催予定)

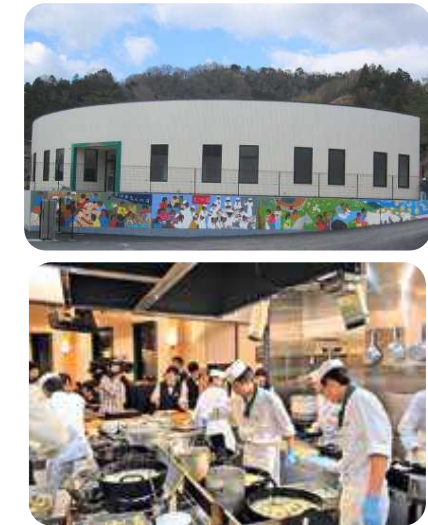
第2回 全国高校生SBP交流フェア(8/18-19) 参加地域



図及び写真の出典:「未来の大人応援プロジェクト」HPより

事例紹介 高校生レストラン (三重県立相可高校食物調理科調理クラブ)

- 平成14年に地元多気町と連携し、農業公園「五桂池ふるさと村」に、高校生が休校日の土・日・祝日に営業する研修レストラン「まごの店」を開設。高校生は、仕入れから、調理、接客並びに経理まで一貫して行う。
- 当初は、野外テントで運営していたが、高校が文部科学省事業*1の指定校となったことを契機に、平成17年度に多気町及び三重県が共同で現在の研修レストランを建設し経営を拡大した。
- 隣接する農産物販売所を含む地元食材を活用した料理を提供し、連日満員の賑わいを見せている。年間食数は約1万5千食*2、売上高は約5千万円*3。運営にかかわる材料費、施設管理費及び水道光熱費等を含め、自治体からの補助を受けずに運営している。



当取組の評価(一部)

年度	主催者	表彰名
平成26年	国土交通省	手づくり郷土賞「大賞」
平成23年	総務省	地域づくり総務大臣表彰「優秀賞」
平成21年	フード・アクション・ニッポン	コミュニケーション・啓発部門「最優秀賞」
平成18年	全国農業協同組合中央会(JA全中)	日本農業賞特別部門食の架け橋賞「大賞」
平成17年	国土交通省	手づくり郷土賞「地域整備部門賞」



*1: 文部科学省「目指せスペシャリスト」
 *2: 2014年度食数 15,958食、実施日数 90日 ※他に弁当等を作って販売している
 *3: 2014年度売上高 54百万円
 *2及び3は、文部科学省「27年度地域政策等に関する調査研究～地域振興に有効な教育実践の実態把握と普及方策に関する実践研究」より

事例紹介 南伊勢高校SBP (三重県立南伊勢高校南勢校舎)

- 南伊勢町の急激な高齢化と人口減少による町の衰退が予測される中、魅力的な町を残すため、平成24年度に地域ビジネス創出プロジェクト(SBP)を立ち上げた。自分たちのまちの魅力を知り、地元愛を育て、地域資源を生かしたビジネスを立ちあげ、自ら働く場を確保することで地域に残れる仕組みをつくっていくことを目標にしている。
- 現在、「セレクトギフト」(第3弾まで完売)と「たいみー焼き」(産業振興イベント等に出席)等の取組を行っている。また、地元小学校での特別授業を行った他、南伊勢町まちづくりリーダー研修に参加する等、地域活性化・まちづくりに参画中である。
- 29年度から高校のコース名が「アドバンス」から「地域創生アドバンス」に変更される等、波及効果が出ている。

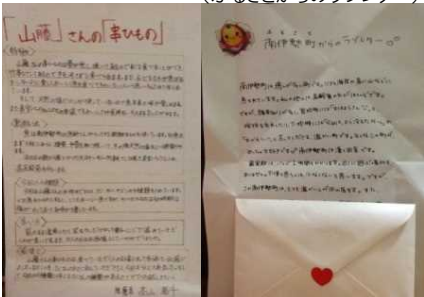


南伊勢町の特産品の詰め合わせ「セレクトギフト」



- 1.セレクト会議
- 2.パッケージデザイン
- 3.仕入れ交渉
- 4.箱詰め
- 5.販売

南伊勢への思いをつづった手紙
商品の紹介文 (ふるさとからのラブレター)



アンケート結果から
・「東京都」「福岡県」「愛知県」など多方面に届いている。
⇒南伊勢を出て行った方に、「南伊勢からの贈り物」としてふさわしいと認められている。

町のゆるキャラの形をしたたい焼き「たいみー焼き」※鯛とみかんがモチーフ



材料

- ・たい焼き粉(町内)
- ・はちみつ(町内)
- ・卵(町内)
- ・あおさ(町内)

26年11月の焼き型



27年9月の焼き型



地域活性化・まちづくりの一員として活躍

地元小学校での特別授業の様子



南伊勢町まちづくりリーダー研修の様子



「全国高校生SBP交流フェア」受賞事例

文部科学大臣賞 静岡県立静岡農業高等学校松葉研究班

静岡県立静岡農業高等学校 松葉研究班

『松葉』を食用に。
付加価値をつけた松葉商品販売

現在三保松原では松枯れが進行しており、景観維持のため剪定、伐採された松の廃棄に多額の費用がかかり地域の負担になってしまうという問題を抱えています。

私たちはこの問題を解決するため、平成23年に発足し今年で7年目となります。基礎研究で松葉の有用性を科学的に検証し、検証した結果から応用研究によって松葉を食品などに添加し、商品開発や開発した商品の販売活動を行っています。

現在は今までに発見してきた松葉の抗酸化作用や血管弛緩作用、アレルギー緩和作用を活かした緑茶や入浴料、うどんや蕎麦の乾麺を開発しています。

また、地域住民との交流やイベントなどで商品販売を行い、利益の10%を活用し、三保松原の保全活動を行うなど、松葉の有用性について多くの方に知って頂くだけでなく、商品を買っていただくことで保全事業の手伝いができ、付加価値を商品につけて販売しています。現在、地域の方たちや大学生との連携で販売地域の拡大を考えるなど活動の幅を広げています。



<第2回全国高校生SBP交流フェア 開催概要>

開催日時: 平成29年8月18日(金)~19日(土)

開催場所: 三重県伊勢市(皇学館大学キャンパス)

参加者: 24団体、360名(生徒約230名、関係者等約130名)

第2回 全国高校生SBP交流フェア
文部科学省は、平成29年8月に三重県伊勢市で行われた
「全国高校生SBP交流フェア」を共催した。
(第3回を平成30年8月共催予定)

三重県知事賞 愛知県立高浜高等学校高浜高校地域活動部SBP班

愛知県立高浜高等学校 高浜高校地域活動部SBP班

「Sの絆焼き型」で
全国を繋ぐ

高浜高校は、今年で創立50周年を迎える高浜市内唯一の県立高校です。本校には、普通科と福祉科があり、約700人の生徒が在籍しています。本校のシンボルは、校舎の屋根に輝く黄色と青色の瓦です。高浜市は日本三大瓦のひとつである「三州瓦」の生産地で、私たちが作製・販売している「Sの絆焼き型」にも、その技術が活かされています。

「Sの絆焼き型」とは、南伊勢高校の「たいみー焼き」からヒントを得た、オリジナルキャラクターたい焼き型です。この焼き型は、依頼されたデザインを瓦職人(鬼師)が立体的な形にし、それを基に、こちら市のも主要産業である自動車部品メーカーが金型を彫り込むという工程を経て作製しています。これまでに、青森県の三校から受注をいただき、納品することができました。

私たちは、地域活動部SBP班として新入生を迎えて新たなスタートを切りました。これからも地域の方々と連携し、高浜市の魅力を発信していきたいと思ひます。さらに、「Sの絆焼き型」で世界進出にも挑戦していきたいです。



【参考】地域ビジネス創出事業(SBP)に関連する提言・計画等

「まち・ひと・しごと創生基本方針2018」(平成30年6月15日閣議決定 抜粋)

Ⅲ. 各分野の施策の推進

3. 地方への新しいひと流れをつくる

(1)キラリと光る地方大学づくり等による地域における若者の修学・就業の促進

◎地方創生に資する高等学校改革の推進

- ・ 高等学校は、地域人材の育成において極めて重要な役割を担うとともに、高等学校段階で地域の産業や文化等への理解を深めることは、その後の地元定着やUターン等にも資する。
- ・ このため、高等学校が、地元市町村・企業等と連携しながら、高校生に地域課題の解決等を通じた探究的な学びを提供する取組を推進するとともに、進路決定後の期間を利用したインターンシップの充実等を通じて地域の魅力に触れられる取組等を推進し、地元根ざした人材の育成を強化する。
- ・ また、これらの取組を充実させるためには、高等学校と地元市町村等の地域の関係者の間で継続的に緊密な連携を行い、地域一丸となって取り組んでいくことが必要である。そのため、地域の関係者により構築するコンソーシアムの設置など、高等学校を活用した地方創生を進めるための地域の基盤構築について、事例等の紹介もを行いながら推進する。

「第3期教育振興基本計画」(平成30年6月15日閣議決定 抜粋)

Ⅲ. 2030年以降の社会を展望した教育政策重点事項

○ こうしたライフサイクルの中では、若年期において、知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等の涵養かんようといった資質・能力を身に付けることに加え、人生100年時代をより豊かに生きるため、生涯にわたって自ら学習し、自己の能力を高め、働くことや、地域や社会の課題解決のための活動につなげていくことの必要性が一層高まっていく。

Ⅳ. 今後の教育政策に関する基本的な方針

3. 生涯学び、活躍できる環境を整える

○ 様々な環境変化に対応し、人々が孤立することなく生きがいを持って社会に参加し、地域社会の活力を維持・向上させることとなるよう、人々の暮らしの向上と社会の持続的発展に向けた地域課題解決のための学びの推進を図る必要がある。その際、学習活動の拠点となる社会教育施設の効果的な活用や、地域の学校や大学等と社会教育施設との連携が重要である。

「教育再生実行本部 第八次提言」

(平成29年5月18日 自由民主党 教育再生実行本部(学校・家庭・地域の教育力部会))

2. 重点的に取り組むべき施策

2. 学校と地域の連携・協働

(2)地域学校協働活動の推進

高校生らがまちづくりの手法等を学び、地域の大人とともに地域課題を解決する取組等を促進、支援する。

「一億総活躍社会の構築に向けた提言」

(平成29年5月10日 自由民主党 一億総活躍推進本部)

2 若者の雇用安定・活躍加速に関する支援施策について

(2)学校から地域・社会・職業への円滑な接続支援

(ロ)高校生や大学生による地域の課題解決活動の全国展開

高校生や大学生が地域の課題を実際にビジネスの手法を用いて解決する取組(SBP: Social Business Project)は、若者の起業への意欲・関心向上や地域への定着を図る観点からも効果的である。本取組の全国への普及を図るため、国は基礎自治体と連携協力し、必要な支援を行い、若者の活躍の場としてのソーシャルビジネスの拡大につなげる。

「自己肯定感を高め、自らの手で未来を切り拓く子供を育む教育の実現に向けた、学校、家庭、地域の教育力の向上(第十次提言)」

(平成29年6月1日 教育再生実行会議決定)

1. 学校・家庭・地域の役割分担と教育力の向上について

(2)家庭、地域の教育力の向上

(地域の教育力)

- 国、地方公共団体は、民間機関等との連携のもと、地域の教育力を向上させていくための一つの方策として、高校生らがビジネスの手法等を学び、地域の大人とともに地域課題を解決する取組等を促進、支援する。



第2回全国高校生SBP交流フェアの様子

別添2



○ポスターセッション

各部屋に4団体程度パネルブースを設け、4班に分かれた審査員に対して、各団体が取組みを発表し、質疑応答を行った。各団体は計4回質疑応答をするが、審査員が変わると内容や雰囲気も変わり、良い経験となった。
18団体が参加し、審査で選ばれた7団体が翌日のアワードに臨む。



○ワークショップ

「マスキングテープアート制作」
提供：(株)レオパレス21

78名の高校生が参加し、プロのデザイナーから装飾デザインを学びながら協同で作業をした。



○ワークショップ

「マイビジネス等を使ったデジタルマーケティング」
提供：グーグル合同会社

49名の高校生が参加し、デジタルを活用したマーケティング基礎を学んだ。

第2回全国高校生SBP交流フェアの様子



○販売

16団体が参加し、伊勢神宮外宮前の広場にて、道行く人に向けて各団体の物産等を販売した。ポップを持って呼び込みを熱心にするなど積極的に動く生徒もいて、同年代の頑張りが良い刺激になった。

写真は、愛知県立高浜高校生がテント外で呼びかけている。



○アワード

前日のポスターセッションで選ばれた7団体が10分間プレゼンし、審査員からの質疑応答を受けた。審査員からは温かい対応や厳しい質問もあり、活動の意義を再確認する良い機会になった。



○表彰式

全体の表彰はアワード参加の7団体だけでなく、ポスターセッションだけした団体も含めて行った。審査をした企業からの特別賞も授与した。